NO.723 2022　　聖イグナチオ教会報

3月

カトリック麹町教会

MAGIS

イグナチオ年

Ignatius 500

マジス　＝　「より、もっと、さらに」

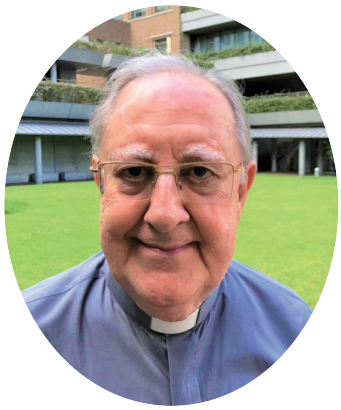
2022年度 教会テーマ

困難の中で、イエスとともに希望の扉を開いていこう
祈り、つながり、協働する　　2030年に向けて一歩ずつ

聖イグナチオと私

私とロヨラの聖イグナチオとの関係

協力司祭　ヘネロソ・フローレス



イグナチオ年に当たって、私とロヨラの聖イグナチオとの関係のことを振り返って、やっぱりその関係は確かに深いと気が付きました。

子供の時から私はバスコ（編注 バスクのスペイン語読み）地方のロヨラ城に近いサン・セバスティアン（San Sebastian）と言う町育ちです。サン・セバスティアンからロヨラへ車で一時間で行けます。

私の小学校、中学校、高等学校はイエズス会の〝聖イグナチオ学園〟でした。卒業してからロヨラ城でイエズス会に入会しました。修錬は2年間、大学教育は2年間、哲学は3年間で、全てロヨラ城で過ごしました（1952年～1959年）。そして神学生としてロヨラ城から日本に来ました。

言うまでもなく、私の霊的信仰生活は、聖イグナチオの〝霊操〟に基づいています。

霊操の中心や目的は**「望んでいるものを願うこと。ここでは、よりよく主を愛し従えるように、私の為に人間になってくださった主を深く知ることを願う」（霊操　104）。**

▲ Saint Ignatius of Loyola Preaching（Johann Wolfgang Baumgartner）

結局、神でありながらも私のような人間になってくださった主イエスの私に対する無限の愛に愛を持って応えることです。主イエスを知れば知るほど、その主イエスを愛し従わざるをえないからです。

イグナチオは回心して、主イエスの愛を発見すると、出来るだけ近くからイエスを愛し、従う努力を始めました。その深い愛は、確かに私たちにとって、良い模範と励ましになると思います。

その愛の具体的な実現をひとつ挙げます。貧しいイエスに従う為にイグナチオは足を引きずり、物乞いをしながら数年間ヨーロッパを何回も歩きました。

今年のイグナチオの回心の500周年記念は、私たちを新しい回心に招く良い機会ではないでしょうか。

聖イグナチオの取次ぎによってそれを願います。

教会報 MAGIS 3月号

† 「新しい協働」フォーラム⑤　P2-3
† 教会行事の報告　P4
† イグナチオ年特集⑧　P5
† カトリック教会の取り組み　P6

共同体を生きる

【3月の共同祈願】

新型コロナウイルス感染拡大のため、
人との交わりが困難になる中にあっても、
私たちが人との絆を感じあえるよう努め、
主に信頼し忍耐と共に
希望をもって過ごすことができますように。

担当：水曜ティーサロン

ミッション 2030　ー前文ー

私たち聖イグナチオ教会は、祈りにもとづく使徒的共同体を生きていきます。

現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、環境破壊など、未来に希望を見いだしにくい反福音的なものに脅かされています。それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、いつくしみの扉を開いていきます。

私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、貧しい人や弱い人の声を聴き、皆でともに手をたずさえて（日本人も外国人も、老いも若きも）、福音の喜びを分ち合っていく使命を生きていきます。

ミッション2030

第5回「新しい協働」フォーラム
テーマ「隣人となる恵み　インターナショナル共同体との交わり」

2022年2月6日（日）13時より、ミッション2030の4番目の柱「新しい協働」の第5回フォーラムがヨセフホールにて開催されました。対面とオンライン（Zoom）の併用で、参加者73名が多様な国の方々との協働について話し合いました。（担当H）

インドネシア語の主の祈りに続き、英隆一朗主任司祭がお話をされました。インターナショナル共同体から活動内容が紹介され、グループごとに分かち合った後、発表が行われました。

主任司祭の講話1

近年、多文化共生が都市の目標の一つになっています。この教会でもインターナショナル共同体との交わりについて話し合う機会がもてたことは大きな恵みです。

ミッション2030の前文に「私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、貧しい人や弱い人の声を聴き、皆でともに手をたずさえて（日本人も外国人も、老いも若きも）、福音の喜びを分ち合っていく使命を生きていきます」とあります。単につながるだけではなく、文化を超えて手を取り合い、コラボレートの発想でどう協働していくかが大事です。

外国人の信徒にとって、母国語でミサに与り、話し、食事をともにすることが保証されている教会は大切な場です。当教会をはじめ、地方の教会には次々と外国人中心のコミュニティが生まれています。一方、日本人信徒は高齢者が中心です。外国人の信徒の手を借りないと教会が成り立たない状況になっており、これは教会の在り方そのものが変わってきていることを意味しています。

昨年はベトナム人の信徒が中心になって大掃除をし、テレジアホール前にクリスマスの馬小屋を製作しました。青年同士の交流も盛んで、IYD（イグナチオ・ユース・デー）国際ミサは4つの青年共同体が協働しました。言葉の壁を超えてどうつながっていくか、具体的に何ができるかを考えていきましょう。

インターナショナル共同体から

①英語圏英語センター

ルイス・カンガス神父のご指導で、国際共同体として発足しました。その後、1988年、バレンタイン・デ・スーザ神父がジョン・デ・ブリット英語センターとして受け継ぎ、現在はボニー・ジェームス神父がセンター長、シスター フロール・フロレーセ、シスター レニー・フェリーがコーディネーターを務めています。

17の活動グループと4つの奉仕活動グループがあります。認可されている活動グループは英語聖歌隊と日本語教室で、他に侍者会、エンジェルス、コーヒー・ウェルカム・ミニストリー、英語圏月例会議、聖体奉仕者チーム、信仰育成講座、御言葉の分かち合いグループ、先唱者・聖書朗読チーム、広報チーム、英語センター事務スタッフ、プレイズ アンド ワーシップ チーム、聖堂係・典礼奉仕者グループ、国際青年会、日曜学校、配信チームがあり、奉仕活動グループは洗礼と回心式・堅信・結婚・初聖体の準備講座があります。

活動グループから、3つのグループをご紹介します。

・プレイズ アンド ワーシップ チーム

神への感謝と讃美をお捧げしています。第一日曜日の午前中、聖歌を歌い、ミサの福音箇所を分かち合い、とりなしの祈りなどを行っています。アメリカ、ガーナ、ケニア、日本など、さまざまな国の信徒が集っています。使用言語は英語と日本語です。

・エンジェルス

2010年よりドメニコ・ヴィタリ神父、シスター ノルミダ・マルケズのご指導のもとで始まりました。当初はフィリピン人のお母さんが英語ミサに与っている間、子どもたちに日本語で福音を伝えていました。現在は6～12歳の子どもを対象に、第1日曜12時の英語ミサに参加し、集会祈願のあとにザビエル聖堂に移動して日本語と英語で信仰を深め、祈っています。メンバーを募集中です。

▲対面とオンラインの参加者がグループにわかれ、活発な分かち合いを行った。

・国際青年会

2017年に6人のメンバーが立ち上げました。イエスを中心として豊かな人生を生き、励まし合いながら、それぞれが持つ賜物を引き出し高めること、霊的成長を助け支えることが目標です。

年間を通して、教会巡礼、リビングロザリー、黙想会、クリスマスキャロリングなどさまざまな活動をしています。2020年夏から始まった16時半の英語ミサでは、受付、朗読、音楽などすべてのご奉仕をつとめています。教会に青年の居場所があることは大きな喜びです。

②東京・インドネシア共同体

1996年発足、活動拠点は当教会と目黒の聖アンセルモ教会で、40～80人が主な活動メンバーです。

当教会では第1・3日曜にインドネシア語でミサを行っていましたが、現在は毎週オンライン配信をしています。合唱団によるYouTube配信やSNSでの配信も積極的に行っています。

コロナ前は合宿や黙想会を行い、教会祭で出店したり、東京大司教区のインターナショナルミサに参加していました。

③ベトナム人カトリック共同体

2019年以降、来日ベトナム人の増加に伴い多くの地域でベトナム人コミュニティが生まれ、若者が集まるようになりました。当教会でも多くの若者が集っています。

コロナ禍での活動は、ミサの配信、困窮者や学生の支援、結婚式の飾りつけなどです。また、2014年7月に発足したベトナム関東青年会には約1200人の若者が所属し、困っている人への支援を喜びとし、神の愛を実現しています。

④スペイン語共同体

セントロ・ロヨラ・センターが拠点です。指導はハビエル・ガラルダ神父、シスター イベッテ・サンチェス、シスター セシリア・ロペスです。ガラルダ神父の聖書の講話、シスターの福音を日常生活で実践する講座、洗礼・堅信・初聖体・結婚のサポート、日本人対象のスペイン語クラス、外国人対象の日本語クラスを開いていましたが、現在はほぼ休止中です。コロナ禍中はミサをオンラインで配信し、2021年7月より月2回、四旬節の黙想会の配信も行いました。若い信徒をどのように増やしていくかが課題です。

主任司祭の講話2

新しい時代に向かわなければいけないと強く思います。カトリックとは「すべてを支える、普遍的」という意味です。このことを頭に置き、どう歩んでいくか考えながら行動したいです。6人から始まった国際青年会は今やカトリック東京国際センター（CTIC）の主要団体です。聖書のからし種のたとえ話そのものです。献堂20周年の多言語のインターナショナルミサは今の時代を象徴していて、本当にすばらしかったです。

これからはもっと深いところで交わっていきたいですが、それには目的が大事になります。ニーズがあるところから何ができるのか。具体的な問題を出発点にし、言語を超えて集まりましょう。

ベトナム人共同体はコロナ禍中、困窮者の援助を行ないました。「大人食堂」では国際青年会が通訳などさまざまな手伝いをしました。教会の掃除は言葉が必要ないので、すぐに協働できると思います。どのようなニーズがあるかをインターナショナル共同体と共有するなど、つながり方の工夫も必要でしょう。

外国人の信徒をホームパーティに招いて日本の文化に触れてもらう、ベトナムやインドネシアなどの海外の教会を姉妹教会にし、そのパイプ役を各共同体に担ってもらい、交流ツアーを企画するなどいろいろなアイデアを形にしていけたらと思います。

【詳細は教会ホームページか事務室前などに配架のニューズレターをご覧ください。】

教会行事

12月下旬～1月上旬の主な教会行事をご紹介します。

●インターナショナル新年祝賀会2022

1月9日（日）11時からオンライン配信されました。

始めに英隆一朗神父は、「イグナチオ年のテーマ『キリストにおいて新しく見る』気持ちを大切に、インターナショナルの形で行うことに新しい希望を見出したいです」と話されました。

今年はコロナ禍で教会グループの活動に制約が多い中で、それぞれのグループが持ち寄った動画を中心に交流を深めました。

最初はベトナム語グループの動画。グエン・タン・ニャー神父の挨拶の後、ベトナム青年会の活動内容が紹介されました。昨年のクリスマスには聖イグナチオ教会で7年以上活動できた感謝の気持ちから、プレゼピオの作成を企画し、その完成までの制作過程を視聴することができました。

続く英語圏グループの動画は、クリスマスの仮装で登場したり、軽快なクリスマスソングに乗って躍動的なダンスをしつつ信徒会館を走り抜けたりする姿が印象的でした。コーディネーターのボニー・ジェームス神父、シスター レニー・フェリー、シスター フロール・フロレーセからも挨拶をいただきました。

▲インターナショナル新年祝賀会　ヨセフホールにて

スペイン語グループは、主聖堂前の馬小屋でギター伴奏に合わせてスペイン語で聖歌「GLORIA」などを合唱しました。ハビエル・ガラルダ神父がスペイン語（日本語字幕付）でクリスマスと新年の挨拶をされました。

次にインドネシア語グループからグループの紹介がありました。アントニウス・フィルマンシャー神父からインドネシア語と日本語でメッセージをいただき、メンバーがご生誕を祝う歌をZoomで合唱しました。美しい旋律と柔らかい歌声に包まれました。

続いて柴田潔神父から、東日本大震災カブト虫プロジェクトと難民支援協会に寄付を振り込んだことの報告とお礼がありました。また日本人グループの紹介では、主聖堂内マリア像の作者中野滋氏（当教会所属）によるマリア像のメンテナンスとインタビュー映像が流れました。そして聖歌「自分を捧げる祈り」を聴きながら終了しました。

YouTubeで
「インターナショナル新年祝賀会」
配信中！

●成人式ミサ

1月9日（日）18時から主聖堂で行われました。

「つながり～神の愛に照らされて～」をテーマに、晴れ着に身を包んだ22名が英神父とボニー神父から祝福を受け「身が引き締まる思いだった」との感想が寄せられました。（以上　担当S）

●サントニーニョフェスティバル

サントニーニョ（聖なる幼きイエス）フェスティバルミサは、フィリピンで最も古く人々の深い信仰を集めているお祝いの一つです。

▲サントニーニョ（聖なる幼きイエス）像

教皇庁認可のもと、毎年1月の第3日曜日に祝っていますが、イグナチオ教会では御像が設置された11年前より毎年この伝統を続けてきました。今年は1月16日（日）16時30分からの英語ミサで行われ、今回は二つの特別な記念すべきミサとなりました。

一つは、今、フィリピンでキリスト教500周年を祝っており、サントニーニョの像がその歴史の始まりに重要な役割を果たしていたということです。二つ目は、司式司祭が教皇フランシスコから12月に日本で最初のフィリピン人司教として次期仙台教区司教に任命された、エドガル・ガクタン神父（淳心会）だったことです。

ミサの献金は台風被害者のために集められ、日曜学校の子どもたちも「自分たちのように幸運ではない子どもたち」を思い、牛乳パックや小箱に入れたコイン、貯金やお年玉から、聖なる幼きイエスに心を込めて捧げました。

（シスター フロール・フロレーセ）

Ignatius500
イグナチオ年

聖イグナチオの伝記⑧
イエスの仲間として

主任司祭　英　隆一朗

ラ・ストルタの示現

イグナチオとその同志たちはパリを後にして、ベネチアに向かう。当初の目的であるエルサレム行きの船を待つためであった。そこでは、赤貧のうちに祈りを深め、広場で説教をして司牧的な活動を行った。残念ながらベネチアとトルコの間で紛争が起こり、巡礼船が出る見込みが立たなくなった。そこで当初のプランBに従って、ローマに行き、教皇の指示に従うことを決める。

ローマに向かう途中、イグナチオがラ・ストルタという小聖堂で祈っていると、大きな神秘を体験する。父なる神がイグナチオをおん子キリストと一緒に置いてくださるのを観たのである。十字架を担うキリストが現れ、おん父がイエスに対して、「あなた（イエス）がこの者（イグナチオ）をあなたの僕となることを望む」と言われ、次にイエスがイグナチオに「あなた（イグナチオ）が私たちに仕えることを望む」と言われた。

この霊的体験はイグナチオの人生で決定的なものであり、かつ後のイエズス会のあり方を基礎づけるものとなった。イグナチオ的霊性はイエス中心であり、仕えることが中心となった。いわゆる「奉仕の神秘主義」と名付けられている。つまりイエスの望みや思いを汲みとり、イエスに仕え、人びとに奉仕していく霊性なのである。

後に「イエズス会」という名前を修道会に付けたのは、この体験に基づいている。それまでの修道会は「ベネディクト会」や「フランシスコ会」のように創立者の名前を付ける慣習があったにもかかわらず、「イグナチオ会」とはしなかった。イエスがその中心にあり、私たちは単にイエスに仕えるものだという信念から、「イエズス会」と命名したのである。

「…父なる神が自分をおん子キリストといっしょに置いてくださるのを見た。」（自叙伝 96）

初代師父たちの討議 Deliberatio Primorum Patrum

ローマに集結した初期のメンバーが直面したのは、将来のことだった。教皇の要望に応えていくならば、彼らはヨーロッパ各地に散らばってしまうことになる。そのままバラバラになるのか、一つの団体としてこれからもともに歩むのかという岐路に立っていた。

そこで、①これからのグループとして活動を続けるか。②そのため、一人の長上を決め、従順の誓願を立てるかどうかを決めなければならなかった。彼らは霊操の選定の方式を取り入れ、2ヶ月ほどかけて、祈りと討議を繰り返すことになった。この討議の仕方と内容は記録に残されていて、今でも詳細を知ることができる。①についてはグループとして歩むことが簡単に決まった。しかしながら、②のテーマに長い時間がかかった。既存の修道会のように、従順の誓願を立てることについては慎重な考えが強かったのである。マイナスの面をしっかり見た上で、プラスの面を検討し、最終的に全員一致で、修道会として歩むことを決議した。この話し合いがイエズス会創立の第一歩となったのである。

現在、このような討議のことを、「共同識別」と呼んでいる。イエズス会に関連する団体やグループはこの共同識別を行うように強く推奨されている。当教会の方針である「ミッション2030」も、共同識別のプロセスを意識して作成された。日々のミーティングにおいても、このような共同識別の形で行われることが最も望ましいやり方である。

◆ふりかえり◆

①イエスは私にとってどのような存在だろうか。そのイエスとどういう関係をもっていきたいか。仕えたいか。頼りたいか、ともに歩んでいきたいのだろうか。

②教会でミーティングをするとき、皆で神のみ旨を求めようとする態度があるだろうか。違う意見をしっかりと聞き、自分の意見を述べながら、神の望みを聞き取ろうとすることが何より大切である。

カトリック教会のさまざまな取り組み

歩みを止めず、ともに進もう

コロナ禍にあって教会に集うことが難しくなっていますが、私たちはカトリック教会の家族として、ともに歩むよう招かれています。これからの教会の2つの動きについて紹介します。

シノドスへの招き

2023年秋に、第16回通常シノドス（世界代表司教会議）がローマで開催されます。これまでは、教皇と司教団によるものでしたが、今回は、教皇フランシスコから、すべての神の民が準備段階からシノドスの歩みに加わるようにと、招かれています。

そもそも、「シノドス」という言葉はギリシャ語で、「ともに歩む」という意味があります。さまざまな問題解決のために、教皇フランシスコは、シノドスをこの「ともに歩む」ものと考えられ、テーマを「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教―」とされました。

この呼びかけをうけ、東京教区でも昨年10月17日の関口教会の主日ミサをもって、教区のプロセスを開始しています。

私たち信徒は…？

東京教区シノドス担当である小西広志神父（瀬田教会主任司祭）は、シノドスの「歩み」において大切なこととして、「参加する」「聴く」「識別する」を挙げられています（※1参照）。積極的に歩みに「参加」し、人々の声を「聴く」こと、そして自らがどこにむかっているのか「識別する」ということです。

教会に集うことが難しい昨今ですが、解説動画「シノドスへの歩み」がYouTubeで公開されています（※2）。まずは動画を視聴し、シノドスへの理解を深めることから「参加」してみませんか。

←東京教区 HP「シノドス特設ページ」※１の詳細はこちら

東京教区 HP → YouTube 解説動画一覧 ※2

ミサ式次第の改訂

日本語のミサの式次第が改訂され、2022年11月27日（待降節第1主日）から実施されます。当教会においても、新しい典礼の実施に向け、奉仕者を中心に勉強会をスタートする予定です。

カトリック中央協議会から発行された『新しい「ミサの式次第と第一～第四奉献文」の変更箇所』に、改訂された式文の全文とおもな改訂箇所の解説などが掲載されています。当教会の教会案内所などカトリック書店で販売しています。

▲『新しい「ミサの式次第と第一～第四奉献文」の変更箇所』286 円（税込み）

人事異動

2022年４月17日（復活祭）より

英　隆一朗神父
（主任司祭）
→大阪教区六甲教会主任司祭へ

グエン・タン・ニャー神父
（当教会協力司祭）
→当教会助任司祭へ

ブラザー吉羽　弘明
（当教会・福祉担当）
→別の使徒職へ

サトルニノ・オチョア神父
（福岡修道院）
→当教会主任司祭へ

ブラザー沖下　昌寛
（上石神井修道院）
→10月より、典礼と福祉関係の担当

神父様方の今後のご活躍をお祈りください。

2 月のお知らせ 3（2022 年 2 月 11 日抜粋）

2 月 19 日（土）から以下のようにします。

◇ミサ等変更点
- 2 月 19 日（土）から土曜 18 時、日曜 7 時と 8 時 30 分のミサを再開します。
- 土曜 12 時と日曜 18 時はしばらくの間、聖体礼拝を行います。
- 2 月 21 日（月）から平日 7 時、12 時、18 時の聖体礼拝を再開します。希望するグループがあればミサを受付けます。
- 2 月 19 日（土）夕方からゆるしの秘跡を再開します。但し、日曜夕方はなし。

◇その後のミサについて
- 2 月 26 日（土）14 時、イエズス会員 3 名の最終誓願式があります。
- 3 月 2 日（水）灰の水曜日は 12 時と 19 時にミサと灰の式をしますが、個人ネット予約のみです。
- 3 月 6 日（日）は洗礼志願式のミサですが、関係者のみの参加です。
- 4 月の聖週間の典礼も個人ネット予約のみの予定です。

主任司祭　英　隆一朗

※「3 月のお知らせ（2022 年 2 月 22 日）」で、3 月 6 日（日）以降の日曜日 18 時のミサと、17 時 30 分からのゆるしの秘跡の再開が追加されています。

3 月の典礼と行事

2　（水）　灰の水曜日（大斎、小斎）	**12 時、19 時　ミサと灰の式（ネット個人予約のみ）　四旬節の期間中愛の献金**
4　（金）　初金曜日	**十字架の道行　18：45 マリア聖堂（聖週間前までの毎金曜日）**
6　（日）　四旬節第 1 主日	**洗礼志願式　10：00**
13　（日）　四旬節第 2 主日	子どもとともにささげるミサ　10：00
18　（金）	**性虐待被害者のための祈りと償いの日**
19　（土）　聖ヨセフの祭日	
20　（日）　四旬節第 3 主日	**ミッション 2030　新しい「協働」フォーラム⑥　13：00**
21　（月）	**四旬節黙想会**
25　（金）　神のお告げの祭日	
27　（日）　四旬節第 4 主日	**教会活動連絡会議　13：00　ヨセフホール**

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

主任司祭：英　隆一朗
助任司祭：ボニー・ジェームス
　　柴田　潔
協力司祭：ヘネロソ・フローレス
　　ハビエル・ガラルダ
　　グエン・タン・ニャー
　　マヌエル・シルゴ
ブラザー：吉羽　弘明
シスター：イベッテ・サンチェス
　　（セントロ・ロヨラ）
　　フロール・フロレーセ
　　（ジョン・デ・ブリット　イングリッシュセンター）

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサ時間　Mass

【平日 Weekday】
7 :00（聖体顕示）主聖堂　Main Chapel
12:00/18:00（ミサ又は聖体顕示、聖堂は要確認）

【日曜日 Sunday】主聖堂　Main Chapel
土曜 18:00/7:00/8:30/10:00/18:00
12:00（English）/13:30（Español）/
15:00（Việt Nam）/16:30（English）

【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
Our Lady's　Chapel
12:30（Português）/16:00（Polski）

【月の第 2 第 4 日曜日　2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel　16:30（Indonesian）

カトリック麹町教会
（聖イグナチオ教会）
〒 102 － 0083
千代田区麹町 6 － 5 － 1
TEL 03 － 3263 － 4584
FAX 03 － 3263 － 4585
http://www.ignatius.gr.jp

ホームページ　フェイスブック

マジスへのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。